

ほむ・ほむ通信

No. **67**

生協の組合員と日本ユニセフ協会を結ぶネットワーク通信「ほむほむ通信」は、生協組合員のボランティアグループで発行・編集をしています。生協のユニセフ活動に積極的にご活用ください。



コアノンロールを持つアンゴラの子もたち



2014年ラブウォーク中央大会の様子



エボラ出血熱緊急募金より

目次

| | |
|-----------------------------------|----|
| ◇エボラ出血熱緊急募金 | 1 |
| ◇知っとこ。ユニセフ | 3 |
| ユニセフ支援ギフト | |
| ◇世界の子もたちは今 | 4 |
| 人道危機 シリーズNo. 1 | |
| ◇生協のユニセフ支援活動 | 5 |
| ハンドインハンド特集 | |
| ◇トピックス | |
| * 2014年は子どもたちにとって“恐怖と失望”の年に | 7 |
| * 東日本大震災 支援活動4年レポート | 9 |
| * CO・OPコアノン・スマイルスクールプロジェクト | 10 |
| * ユニセフラブウォークのご案内 | 11 |

ほむ・ほむ通信 活用のすすめ

- ・ すべてのページをコピーしなくても、「知っとこ。ユニセフ」や「世界の子もたちは今」を集めて、資料としてご活用いただけます。
- ・ ユニセフのつどいやユニセフ展、学習会の際に資料としてご活用いただけます。
- ・ 店舗の募金箱の近くに置いて、生協のユニセフ活動を紹介する際にご活用いただけます。
- ・ 生協の管理している文化センターなど、共用施設の雑誌コーナーなどにもご活用いただけます。
- ・ 写真のコンテンツも充実しているので、カラーコピーでのご使用をおすすめします。



エボラ出血熱緊急募金

西アフリカ ～ギニア、リベリアで学校が再開されました～

エボラ出血熱の流行で影響を最も受けたリベリア、ギニア、シエラレオネの3カ国では、昨年7月～8月の休みが終わっても学校が再開されませんでした。これにより、500万人の子どもたちが何カ月間も教育の機会を奪われました。しかしながら、2015年1月にギニア、2月にリベリアで学校が再開され、3月にはシエラレオネでも学校が再開することが見込まれています。

子どもたちが安全に教室に戻れるよう、ユニセフとパートナー団体は、エボラ・ウイルスの感染リスクを最小限にするための対策を実施しています。



© UNICEF/NYHQ2014-3422/Nesbitt
エボラ出血熱で学校が休校となっていた際、ユニセフはパートナー団体と協力して自宅で学習できるようにするための教材を配布。教材を使って母親と勉強をする男の子。

◆ ギニアに続いて、リベリアで学校が再開

今年1月に学校が再開され、130万人以上の児童が学校へ戻った隣国ギニアにおいて既に成果が出ている安全対策に基づき、登校時の検温や教室に入る前の手洗いなどが実施されています。

「私たちは、すべての学校が直ちに再開されることは望んでいません。児童の大多数が学校に戻るまで、最長で1カ月はかかるかもしれません。この期間中、可能な限り安全な環境の整備が、教育省によって行われます」と、ユニセフ中部・西部アフリカ地域事務所代表、マニユエル・フォンテーンは述べます。

1月のギニアでの支援活動に続き、ユニセフはリベリアでも、政府や各地域のコミュニティと緊密な連携のもと安全対策を実施し、安全に学校再開をするための教員向け講習や、石けんや衛生用品などの支援物資の提供を実施しています。また、エボラ出血熱感染予防キャンペーンが、国内全土で展開されています。

ユニセフとギニア教育省の調査によると、現在、国内のほぼすべての学校(1万2,000校以上)が再開し、就学率はエボラ出血熱の流行前の85%にまで達しています。



© UNICEF/NYHQ2015-0191/Ryeng
安全な学校再開・運営のための講習で、赤外線放射温度計の使用方法について説明。(リベリア)



© UNICEF/NYHQ2015-0054/UNMEER Martine Perret
ギニアのコナクリにある小学校で学校が再開。登校する生徒たちに非接触式体温計を使って体温検査を実施。

◆ まもなく学校再開のシエラレオネ

シエラレオネでは3月末に学校再開が予定されていますが、ユニセフは休校状態にあっても教育の機会を提供するラジオ教育プログラムの開発を支援しています。ラジオの数が少ないこと、そして電力供給も不安定なものであるため、最も脆弱な立場に置かれている5万世帯への太陽光発電式ラジオ1万7,000個を調達し、現地のパートナー団体とともに、遠隔地に収録済みのラジオ放送プログラムを提供しました。

学校再開後も、算数、社会、理科などの強化を含むこのラジオプログラムは継続される予定です。これは特に学校に通えない児童への教育支援において、重要な役割を果たします。エボラ危機前、シエラレオネの初等教育就学率は74%でした。

◆ 子どもたちが安全に勉強できる環境を

ユニセフ・リベリア事務所フォンテン代表は、「リベリアはギニアの成功例から重要な教訓を得ました。シエラレオネでの対策は、リベリアでの経験に基づき実施されます。再開される学校が増えていくにあたり、ユニセフは、子どもたちにとって学校が安全な場所であるよう、よりよい対策を継続して行っています」と語っています。



© UNICEF/NYHQ2015-0054/UNMEER Martine Perret
小学校の校庭で手洗いをする児童たち。(ギニア)

◆ ユニセフとパートナー団体による学校再開に向けた支援活動例

| | |
|-----------------------|--|
| ギニア (1月19日再開) | <ul style="list-style-type: none"> ● 4万7,500以上の衛生キットを、子ども280万人を対象に配布 ● パートナー団体を通じ、2万500個の赤外線放射温度計を提供 ● 8万500人の教員に、安全な学校再開・運営のための研修を実施 ● 最終的には3万人の小学校教員が心のケアの研修を受けられるよう、300人以上に訓練を実施中 |
| リベリア (2月16日再開) | <ul style="list-style-type: none"> ● 衛生キット7,200セットを4,000校に配布中 ● 安全な学校再開・運営のための講習を教員と学校管理者1万5,000人に実施中 ● 6,000人近くの教員に、エボラ出血熱予防のための戸別訪問を実施(2014年9月～12月) |
| シエラレオネ (3月30日再開予定) | <ul style="list-style-type: none"> ● 1万6,200以上の衛生キットを学校再開に備えて配布中 ● 3万6,000人の教員に安全な学校運営に関する研修を実施中 ● 7,000人の教員に、心のケアやエボラ出血熱感染予防、啓発活動に関する研修を実施中 |

(参考資料: 日本ユニセフ協会ホームページ エボラ出血熱緊急募金 第57報、第61報)

ユニセフが2015年6月までのエボラ出血熱対応のため国際社会に支援要請した金額は**5億米ドル**(約587億5,000万円)。しかし、未だ**37%**にあたる**約1億8,789万米ドル**(約220億円)が不足しています(2015年1月22日時点。1米ドル=117.50円で計算)。

◆ エボラ出血熱緊急募金 ◆

日本ユニセフ協会では、西アフリカを中心としたエボラ出血熱の流行によって厳しい状況下に置かれている子どもたちに対して、ユニセフが行う緊急支援のための**エボラ出血熱緊急募金**を受け付けています。あたたかいご支援をよろしくお願いいたします。

郵便局(ゆうちょ銀行)募金口座
振替口座: 00190-5-31000
口座名義: 公益財団法人 日本ユニセフ協会

*通信欄に「エボラ出血熱」と明記願います。
*窓口からのお振込の場合、送金手数料は免除されます。

知りたい? 知っここ。ユニセフ ユニセフ支援ギフト

ユニセフ支援ギフトとは?

支援ギフトは 16 アイテム

ポリオワクチンの投与(トルコ)



ユニセフの支援物資を、途上国の子どもたちにプレゼントする支援方法です。ワクチン、赤ちゃん体重計、蚊帳などのユニセフの支援物資をご指定ください。ユニセフがあなたに代わって、子どもたちのもとにお届けします。

支援 できるものは...

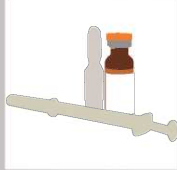
経口ポリオワクチン



ワクチン用保冷箱



はしかワクチン



虫下し



赤ちゃん体重計



プランピーナッツ



箱の中の学校(教育キット)



箱の中の幼稚園



エイズ簡易診断キット



浄水剤



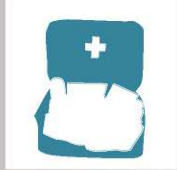
家庭用水セット



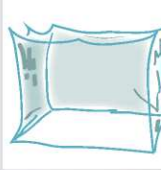
経口補水塩(ORS)



緊急医薬品キット



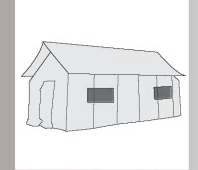
マラリア予防蚊帳



毛布



テント



ユニセフ支援ギフトは、子どもたちの生命と健康を守り、健やかな成長に必要な支援物資をプレゼントとして開発途上国の子どもたちに贈ることができる、画期的な支援方法です。

支援物資は、ユニセフ物資供給センター(コペンハーゲンなど)から、ユニセフが活動する世界 150 以上の国と地域に届けられます。

詳しくは、



ユニセフ協会HP
<http://www.unicef.or.jp>



ユニセフ支援ギフト
お問い合わせ



03-3590-3030
 受付時間 9:00~18:00 平日

支援物資の細かい説明、
 実際の支援レポート動画も
 ご覧いただけます。

手続きもできます! ぜひご覧ください。

Eメールでのお問い合わせ
onlinecollection@unicef.or.jp





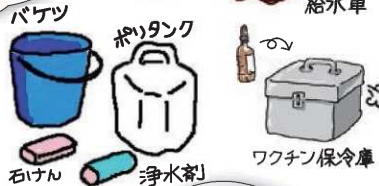
世界の子どもたちは今

人道支援
人道危機 緊急募金
シリーズ No.1

自然災害や紛争などの緊急事態が起こると、いつも子どもたちが最も影響を受けます。

難民や避難民の大多数は女性と子どもたちで、その多くは、災害や紛争で直接亡くなるのではなく、栄養不良や病気、雨風を防ぐシェルターがないことや、安全な水や衛生施設が手に入らないことで命の危険にさらされます。

ユニセフは
子どもたちの命を守るため
に、いち早く人道支援物資を
輸送するんだよ



僕たちの募金も、
水や栄養補助食品・
毛布や、ワクチンに
なって届けられるん
だね？



経口補水塩

1



井戸やトイレ、
学校建設などにも
使われてるよ。

それから、先生の研修や、
技術者教育などもある。
危機から抜け出して復興
すること。
子どもたちが健康で安全に
暮らせる社会を築くまでが、
ユニセフの『人道支援』
なんだ。



2

災害も紛争も
ニュースにならないと
すぐ忘れられちゃうけど、
ず〜っと長い支援が
必要なんだね。



ユニセフのお兄さん

『募金』に
協力するだけでなく、
その後どうなったか、
ときどき気にかけて
くれるとうれしいな。

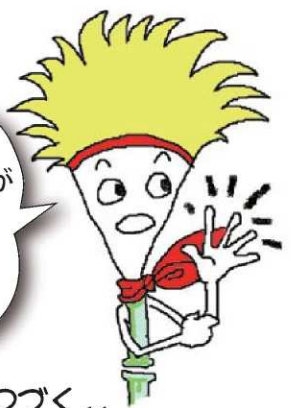
3

4

- ①中央アフリカ共和国
- ②エボラ出血熱 (西アフリカ)
- ③イラク
- ④南スーダン
- ⑤シリアとその周辺国

現在、
最も高い緊急事態と
している『人道危機』が
五つあるんだ。
次回はそのこと
について調べてみよう！

この辺はまだまだ
大変なんだね。



次号へつづく..



今回は ユニセフ・ハンド・イン・ハンド募金 特集です

HandinHand

“手に手をとって”を意味する「ユニセフ ハンド・イン・ハンド」募金。事前に登録をすれば誰もがユニセフ・ボランティアとして参加できます。

1979年の国際児童年には始まり、2014年で36回目を迎えました。毎年11月～12月を募金月間とし、全国の街頭やイベント、学校などで多くの募金活動が取り組まれます。全国の生協でも取り組まれ、多くの方が参加し、募金を呼びかけました。各地の取り組みをご紹介します。



岩手県ユニセフ協会の募金活動（岩手県生協連）



高校生が街頭で募金を呼びかけました

岩手県ユニセフ協会は、いわて生協・岩手県学校生協・盛岡大学生協学生委員会と提携し、12月6日(花巻市)、12月13日・14日(盛岡市)に「2014ハンド・イン・ハンド街頭募金活動」を実施しました。この募金活動には、中学生・高校生・大学生・一般ボランティアなど477人が参加しました。寄せられた募金は、合計469,720円でした。



埼玉県内 27カ所で募金を呼びかけました（コープみらい さいたまエリア）



埼玉県ユニセフ協会顧問の清水勇人さいたま市長（写真中央）も参加（JR大宮駅西口）

コープみらい さいたまエリアでは、日本ユニセフ協会の呼びかけにこたえ、12月にコープの店舗や駅頭など埼玉県内27カ所で「誰もが大切な“いのち”」をテーマに募金に取り組みました。ブロック委員会や組合員、役職員、埼玉県ユニセフ協会や同ボランティアなど307人が募金を呼びかけ、総額370,137円が寄せられました。



横浜みなとみらい JR 桜木町駅で呼びかけ（ユーコープ かながわ県本部）



ユーコープかながわ県本部は、12月14日に横浜のJR桜木町駅前広場で活動に取り組みました。地域のボーイスカウトの子どもたちや中学校の生徒、生協職員に加え、生協のキャラクターの着ぐるみも加わり、合計64人で活気のある活動ができました。



寒さに負けず、合計11カ所で活動（コープぎふ）

12月7日から23日にかけて、各務原市、下呂市、高山市、関市、大垣市、多治見市、可児市、恵那市、岐阜市の9市11カ所で活動を行いました。雪が降った会場もありましたが、地域の学校の先生や学生さん、組合員など、多くの人々の元気な呼びかけに、多くの方々が温かい気持ちでこたえてくれました。

地域の学校、団体または生徒と一緒に取り組むスタイルが定着しており、地元の中学生や高校生など、合計237人の生徒さんたちが力をあわせて活動しました。

街頭・店頭募金額では計632,217円、並行して実施した「OCR募金」では、359,400円の募金をお預かりし、総額991,617円の募金となりました。



大垣市での活動の様子



2つのエリアで活動（鳥取県生協）

鳥取県生協は、12月16日（西部エリア）、12月20日（東部エリア）にそれぞれ活動に取り組みました。どちらもショッピングセンターでの活動で、買い物に訪れた多くの人たちが募金に協力してくれました。鳥取県生協は、これからも世界の子どもたちの支援のための活動を続けて行います。



西部エリアで活動したみなさん

このほか多くの生協がハンド・イン・ハンド募金に取り組み、全国から合計2,634,530円が日本ユニセフ協会に送られました（2015年1月31日現在）。



1,500万人の紛争下の子どもたち

世界から忘れ去られた人道危機

2014年は子どもたちにとって“恐怖と失望”の年に

2014年12月8日 ニューヨーク/ジュネーブ発

ユニセフは、2014年は世界中の何百万人もの子どもたちにとって、恐怖と失望の年であると発表。世界各地で起きている武力衝突が激しさを増し、子どもたちが争いの当事者である武力勢力によって、強制的に徴用され、故意に標的とされているにもかかわらず、それらの多くの危機が、もはや世界から忘れさられていることに警鐘を鳴らしています。

★ 紛争の影響のある国や地域で暮らす子ども 2億3,000万人



© UNICEF/NYHQ2014-0344/Holt
避難所で食べ物を分け合って食べる子どもたち
(南スーダン)

1,500万人もの子どもたちが、中央アフリカ共和国、イラク、南スーダン、パレスチナ、シリア、そしてウクライナで起きている紛争や武力衝突に巻き込まれています。その数には、国内に避難している子どもたち、国外で難民として暮らしている子どもたちも含まれています。現在、世界で2億3,000万人もの子どもたちが、武力衝突の影響がある国や地域で生活していると推定されています。

2014年、何百人もの子どもたちが、学校敷地内あるいは登下校途中に誘拐されました。何万人もの子どもたちが軍や武装グループによって徴用されています。学校や保健施設への攻撃、そして軍事目的で校舎が利用されるケースがあらゆる地域で増加しています。

★ 世界から忘れ去られた人道危機

2014年に実際に起きている危機の数に注目してみると、その多くが、人々の記憶から忘れ去られ、あるいは、ほとんど気にも止められていません。アフガニスタン、コンゴ民主共和国、ナイジェリア、パキスタン、ソマリア、スーダン、



© UNICEF/NYHQ2014-1123/EI Baba
空爆で瓦礫となった建物の中、ぬいぐるみを抱いて座る男の子 (パレスチナ)

イエメンで長きにわたって続く危機は、多くの若者や子どもたちの命とその未来を奪っています。

加えて、今年子どもたちの健康や幸せな暮らしを、新しい脅威が襲いました。なかでも、ギニア、リベリア、シエラレオネの3カ国で感染が拡大したエボラ出血熱は、何千もの子どもたちを孤児にし、推定500万人の子どもたちから教育の機会を奪いました。

✦ 子どもたちに希望を—2014年ユニセフの活動



© UNICEF/NYHQ2014-0330/Grarup

安全な場所を求め、バンギの空港に避難する家族
(中央アフリカ共和国)

数々の困難にもかかわらず、紛争や危機下にいる何百万人もの子どもたちが守られる希望があります。支援が必要な地域へのアクセスの制限、身の安全が保障されない地域での支援活動、そして資金不足などに直面しながらも、ユニセフを含む人道支援団体は、お互いの協力の下、子どもたちの健やかな成長を支えるため、命を守る支援や、教育や心理ケアのような重要な支援を、世界で最も危険な地域でさえも行うことができました。

✦ すべての子どもにとってより良い世界を

「子どもの権利条約 25 周年の今年、これまでに世界の子どもたちのために成されてきた多くの成果を祝う一方で、何百人もの子どもたちが残酷な暴力に巻き込まれ、子どもの権利を奪われているという事実はとても悲しく、皮肉なことです」とユニセフのアンソニー・レーク事務局長は語ります。



© UNICEF/UNI167524/Jallanzo

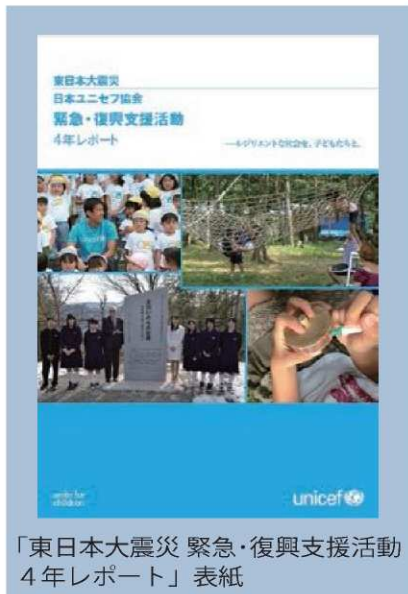
エボラ出血熱の症状や予防法が描かれたポスターを配るユニセフのスタッフ (リベリア)

「暴力やトラウマは、一人ひとりの子どもたちを傷つけるだけでなく、社会の強さを損ないます。2015 年が、すべての子どもにとってより良い年となるように、世界はもっと努力ができます。努力をしなければならないのです。すべての子どもたちが、安全な環境で、強く健康に育つことができ、教育を受けることができれば、その子どもたちは自分自身や家族、コミュニティ、そして国に貢献する人材となり、つまりは、世界が目指す共通の未来を一緒につくっていく人となるのです」。

(日本ユニセフ協会 HP ニュース 2014 年 12 月 9 日更新記事より抜粋・編集)
<http://www.unicef.or.jp/news/2014/0179.html>

もう ご覧になりましたか？

『東日本大震災 緊急・復興支援活動－4年レポート』



東日本大震災から約4年。一瞬にして日常を奪われた子どもたちに、子どもらしく過ごせる時間を取り戻せる「居場所」を提供し、日常に欠かせない「遊び」を通じて“心のケア”をしたいという思いから、日本ユニセフ協会は、子どもたちとその未来に視点をおき、支援を続けてきました。

『遊び』と『参加』、そして『居場所』

4年間の活動を通じて見出したキーワードは、「遊び」と「参加」、そして「居場所」。現在も遊び場や学校、地域を舞台に震災の復興、そして将来の“万が一”に備えることを、子どもたち自身が学び、考え、地域社会に発信する取り組みをサポートしています。

レジリエンス 生きる力を育てる

子どもたちが、最も自由に全心と全身を使って持てる能力を発揮できる「遊び」と「参加」。それは、子どもたちの心を守り、生きる力=レジリエンスを育てます。だからこそ、私たちおとなが、その場=「居場所」を確保しなければならないのです。東日本大震災の被災地はもちろん、あらゆる社会の発展のために。その支援活動も4年の月日が経過。改めて、活動の様子や収支報告を『緊急・復興支援活動4年レポート』としてまとめました。

● 4年レポートPDF版へのリンク ●
http://www.unicef.or.jp/kinkyu/japan/pdf/4_year_report.pdf



CO・OPコアノン スマイルスクールプロジェクト 第4期募金贈呈式を行いました



コアノンロールを持つアンゴラの子どもたち

CO・OPコアノンロール（トイレトペーパー）1パックにつき1円を募金として積み立て、ユニセフによるアンゴラ共和国の“子どもにやさしい学校づくり”を支援する生協の取り組みです。

◆ 募金報告 第4期の募金額は 1,327万3,700円でした

2014年10月31日で終了した第4期（4年目）は、CO・OPやわらかコアノンロールやCO・OPやわらかワンタッチ芯までロールを1,149万4,754パックご利用いただきました。しかし、円安の進行により、ユニセフとの約束した金額に不足額が生じたため、それを補って1327万3,700円をユニセフにお届けしました。2010年11月の開始から4年間の募金総額は、4323万7,808円となりました。

◆ 募金贈呈式 2014年12月5日にユニセフハウスで開催



8社の協力企業の方々や生協組合員などが参加し、日本ユニセフ協会早水研専務理事に募金目録が贈呈されました。また、2014年6月～7月に実施したアンゴラスタディーツアーの報告会もあわせて開催され、ツアー参加者から、現地の状況を実際に見て感じたことや帰国後の報告会の取り組みなどについて、報告がありました。

本プロジェクトは2016年10月まで継続される予定です。今後もアンゴラでの「子どもにやさしい学校づくり」を支援していきます。

第4期募金贈呈式に参加して

アンゴラスタディーツアーに参加された方々は9人。この報告会には全員が集まり、再会を喜びあっていた様子がとてもほほえましく思われ、このツアーがみなさんにとって有意義な経験になったことが強く感じられました。組合員だけではなく、商品のメーカーと協力した活動は、生協だからこそできることだと改めて思いました。これからも応援していきたいですね。

（ぼむぼむ通信編集員 立川順子）



一緒に歩いて、ユニセフ募金。世界の子どもたちに笑顔をお届けませんか？



※ラブウォーク中央大会のチラシ

思い思いのペースで歩いた汗が開発途上国の子どもたちのために役立てられるユニセフ・ラブウォーク。毎年多くの方にご参加いただいているユニセフ・ラブウォーク中央大会が今年も4月5日(日)に開催されます。

この大会は、ユニセフハウスをスタートしてゴールする6キロと12キロのコースを、子どもから大人まで自分のペースで楽しく歩き、その参加費を開発途上国の子どもたちのために役立てるものです。家族、友人、職場の仲間をお誘いの上、ぜひご参加ください。

【開催日時】

2015年4月5日(日曜日) ※雨天決行
受付開始9時

【開催場所】

スタート・ゴールともにユニセフハウス

【参加費】大人¥1000、こども(18歳未満)¥300

【テーマ】『誰もが大切な“いのち”』

【主催】日本ユニセフ・ラブウォーク協議会



2014年ラブウォーク中央大会の様子



今年は最大 9 つの
大使館前をめぐる
コースです！

【申込み・お問い合わせ】
日本ユニセフ協会 団体・組織事業部まで
(電話:03-5789-2012/メール:event-dr@unicefu.or.jp)
※当日、会場での参加受付も行います。

※詳しくは当協会ホームページをご覧ください。
<http://www.unicef.or.jp>

ぽむ・ぽむ広場

編集後記

昨年の夏、蚊が媒介で感染が心配されたデング熱。70年ぶりの国内2次感染との文字にびっくりしました。代々木公園や新宿御苑を閉鎖しても、蚊はどこまで飛んでいくのやら。刺されることが怖くて長袖、虫よけのスプレーをして、さて寝る時はどうしよう……。

子どもの頃つるしていた蚊帳を思い出しました。そして同じ蚊が媒介で感染するマラリアの怖さも同時に思いました。遠い国のできごとと思っていたことが、一気にわが身でその怖さを実感できたことで、デング熱騒動も貴重な体験と思えた私です。

ユニセフの支援ギフトに「マラリア予防蚊帳」があります。この支援ギフトは画期的な支援方法です。(Y)

ぽむぽむ通信 66号より、編集委員に加わったSです。経験豊かな先輩編集委員のみなさまの言葉は勉強になることばかり。楽しく、ためになる記事が書けるようがんばります!(S)

ユニセフ*コープネットワーク

ぽむ・ぽむ通信

No. 67 2015年3月16日発行

編集 **グループ ぽむ・ぽむ**

スタッフ・編集／蛸沢・小池・武田・立川・土橋・
浜崎・松本・山本・石尾・櫻井

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷3-29-8 コーププラザ 11F

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://jccu.coop/unicef/>

○次号は、2015年6月15日に発行予定です。

ぽむ・ぽむ通信・ひとことカード

今回の「ぽむ・ぽむ通信」はいかがでしたか? ご感想やご意見・ご要望をお寄せください。次号以降の参考にさせていただきます。

生協名: _____

氏名 (ペンネーム可): _____ 《 組合員・役職員・その他 》

ご協力ありがとうございました! 下記の宛先までお送りください。

宛先: 日本生協連 組合員活動部 FAX: 03-5778-8125 MAIL: kumikatsu@jccu.coop